研究課題名：

消化管原発びまん性大細胞型 B 細胞性リンパ腫の内視鏡形態と臨床病理学的な検討および予後に関する多施設共同後方視的研究

研究の意義，目的

消化管悪性リンパ腫は節外性リンパ腫の 30-50%を占め、そのなかで発生部位は胃が 60-80%と最も多いとされています。また胃悪性リンパ腫の中では Diffuse large B-cell lymphoma（DLBCL）が比較的多いとされています。DLBCL で EB ウイルスが関与することは比較的稀ですが、これまでの化学療法（CHOP 療法）においては EB ウイルス陰性 DLBCL と比較して予後不良とされています。近年 CHOP 療法から R-CHOP 療法への治療法の変遷がみられ、R-CHOP 療法においての治療反応性および予後は明確ではなく、特に EB ウイルス陽性の胃 DLBCL での臨床所見、治療成績、予後は不明であります。今回、多施設共同研究によってその臨床病理学的な特徴を明らかにし、臨床所見、治療成績、予後を比較検討することで、今後の診断・治療戦略を構築する上での助力になることが期待されます。また、DLBCL は原発性小腸・大腸悪性リンパ腫のなかで最も多い組織型ですが、その治療法はエビデンスレベルの高い臨床研究が少なく確立されていないのが現状であります。その臨床所見、治療成績、予後を明らかにし胃 DLBCL と小腸・大腸 DLBCL を比較検討・解析し、今後の診断・治療を考えるうえで役立つことを目的としています。

研究の方法

平成 7 年 1 月 1 日から平成 27 年 10 月 30 日までに、研究参加施設における病理組織診断にて消化管 DLBCL と診断された症例の病理組織切片と臨床情報を多施設と共同で集めます。集める切片、情報は診療の一環としてすでに実施されたもののみです。顕微鏡観察により得られる形態的な特徴について、免疫組織化学的な評価を行います。また EB ウイルスの発現についても *in situ hybridization* の手法を用いた確認、fluorescence in situ hybridization(FISH)による染色体転座の有無の評価 PCR 法による免疫グロブリン遺伝子の再構成の有無を必要に応じて解析・検討します。これらの形態的な特徴や分子の発現の有無、分子生物学的特徴と、予後などの臨床病理学的な特徴との関連について統計学的に解析、検討します。最終的には 300 症例前後の検討を予定しています。

参加研究機関

名古屋大学医学部附属病院以外の参加施設は以下のとおりです.

愛知県がんセンター中央病院　安城更生病院　京都府立医科大学附属病院　厚生連高岡病院　愛知医科大学医学部附属病院　大分県立病院　岡崎市民病院　独立行政法人地域医療機能推進機構中京病院　信州大学医学部附属病院　トヨタ記念病院　名古屋掖済会病院　長野赤十字病院　兵庫県立がんセンター　福井大学医学部附属病院　松波総合病院　若草第一病院　近畿大学　東葛病院　石川県立中央病院　国立病院機構広島西医療センター　藤田保健衛生大学　金沢市立病院　神戸中央病院　静岡済生会総合病院　大垣市民病院　東海大学医学部基礎診療学病理診断学　碧南市民病院　JCHO 可児とうのう病院　長岡赤十字病院　豊田厚生病院　鈴鹿中央総合病院　鈴鹿中央総合病院　近江八幡市立総合医療センター　愛生会山科病院　愛仁会高槻病院　松江市立病院　京都鞍馬口医療センター　中部労災病院　聖隷三方原病院　東京都健康長寿医療センター研究所　名古屋市立東部医療センター　名古屋第一赤十字病院　一宮市立市民病院

連絡先

本研究に関する連絡先は以下のとおりです.

本研究における診療情報や病理組織切片の利用につきまして、同意できない方、あるいは、疑問等がある方は遠慮無くご連絡・ご質問をお願い致します.

名古屋大学大学院医学系研究科
臓器病態診断学
〒466-8560
愛知県名古屋市昭和区鶴舞町 65 番地
Tel：052-744-2582　Fax：052-744-2651